自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

～1冊の本が人生を変える～

2009 年 10 月

No. 51

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

２００９年１０月までの報告と予定

- ■　5月～10月　南ア KZN 州にて移動図書館 30 校に巡回・農園と図書指導
- ■　5月　アフリカン・フェスタ2009に出展
- ■　6月　南ア教師研修
- ■　7月　TAAA 南ア代表平林、一時帰国、活動報告会開催
- ■　8月　日本より南アを訪問・移動図書館運営指導など
- ■　9月　本 15,203 冊、縄跳び、算数教具などを南アへ発送
- ■　10月　グローバル・フェスタ2009に出展

目次

南アフリカ訪問（野田　千香子）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
ンドウェドウェ＆ブンガシェ地区の移動図書館を観て（北爪　健一）　・・・・・・５
西ケープ州エルギンの移動図書館の報告書（久我　祐子）　・・・・・・・・・・・・７
本の紹介〈貧困のリアル〉〈どんとこい、貧困 〉・・・・・・・・・・・・・・・・・８
「動く→動かす」設立記念シンポジウム（久我　祐子）　・・・・・・・・・・・・・９
ひとこと（田中　真悠・北爪　健一）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
主な活動・ルイボスティ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
寄付・会費・本などを下さった方々 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

乾季の冬場には、水やりが欠かせない学校農園

南アフリカ訪問　野田　千香子

●8月17日（月）午前　ダーバン着
13：30　ダーバンの ELITS 州教育省の出先機関で Besta さんとミーティング。元大学のこの建物の40畳位の部屋を州教育省(ELITS）が TAAA の本置き場として使わせてくれている。
■①TAAA に提供してくれている部屋が広くて鍵がかかること。建物内は州職員が教育省の本の仕分けをしているので、雰囲気も最適。平林さんも職員ととき どき話もできること。②Besta さんの話。本はかなり学校へ配布できるようになってきたが、まだまだ足りないので、TAAA にもぜひ協力してほしいということ。（4年前訪問時より、配布予定という本が何倍も届いていて、箱詰めされていた。州の取り組みは少しずつ良くなっていると思った。）③平林さんがズールー語の本を TAAA の活動対象校にも分けてほしいと州の教育省に依頼。快諾。南アの作家の絵本や童話も移動図書館に積みたいと話し合った。
15：00　ピーターマリッツバーグの教育省 ELITS を訪ね、マリアナおよび州の移動図書館最高責任者とミーティング。移動図書館車は3台が稼働中。11台全部が開始となる、とのこと。（昨年3月久我さんと訪ねた際、マリアナは次の月に走り始める、と言っていたが！）しかし、まずまずだ。TAAA にはとても感謝していた。TAAA の本の置き場所について、ずっと使ってくれて良い、とマリアナも言ってくれたことで今後の南ア TAAA の本の保管と作業を安心して行えることが保証された。
●8月18日（火）
★8：00　ンドウェドウェのウブレビンフンド小とズバネ小をたずねる。マイケルが運転し、若いサンディーレを司書役とする TAAA の移動図書館車は青空に、緑と白の文字が映える。TAAA 南ア事務所が運行する移動図書館は皆から大歓迎。生徒・先生の嬉しそうな顔。生徒たちは順に乗り込んで本を見るだけだがとても楽しそう。早く自分たちで選んで借りたいなと思っている様子。借りるのは、先生がた。熱心にあれこれ選び、10 冊くらいずつ抱えて出てきて、サンディーレに入力してもらって借りていく。選ぶのに時間がかかるのと、南アの女の先生方は体が大きいので、3 人入ったら、満員。移動図書館車の本棚がぎっしり詰まるほど本がないので、本はどんどん借りられて少なくなってしまう。もっと積みたい。

ウブレビンフンド小にて

　北爪さんが「移動図書館運行について」日本の歴史と移動図書館の意義、リクエスト制度（他の図書館からも回して読める制度）などについて、TAAA 南ア事務所の移動図書館担当のマイケルとサンディーレとズバネ小学校の先生方と学校後援会長を前に講義をした。その後、先生方の手作りパンやリブや鳥のから揚げやシチューなど山のような料理を用意して下さった。ザンディーレ先生に畑なども見せてもらう。冬枯れでほとんど収穫がない時期だが、生徒がバケツに水を汲んできては、撒いていた。
★15：00　エナレニ農場・牧場のリチャードさんを訪ねる。リチャードさんはオーストラリアでも勉学・研究をされた世界的な有機農業研究者だ。南ア古来のヤギや牛や植物を育て、フンやゴミを肥料に変えている。大きな農家は手作りだそうだ。敷地の中には、B&B の素敵な建物があり、いつか泊ってみたい宿だ。日本のハコベやアカザのような南アでも雑草として見捨てられている草にビタミンが豊富で含まれているのでそれらも他の野菜と一緒に育てておられた。

リチャードさん（右）から有機農業の説明を聞く

■①リチャードさんの暮らし方が自然そのもので素晴らしかったこと。②津山直子さんの紹介でリチャードさんを訪ねたのだが、1 年に数回、TAAA の農業指導員に有機農業の方法を教えることを引き受けて下さった。ウグ郡での農園活動には、有機農業も少し取り入れていければ、と平林さんとも話し合っている。
●8月19日（水）
★8：00　ンドウェドウェのモンテベーロの Endwebu 小とムジェレ高へ

移動図書館は30校を巡回している。ムジェレ高では学習院高等科の寄付で購入させていただいた本棚が図書室に置かれている。校長はとても感謝されていたが、本が少ししかなくて、本は立てかけるというより、横に並べて置かれていた。本はまだまだいくらでも必要とされていることを実感した。

★14：30　ELETを訪ねる。代表のMervin　Ogleさんや Zain　Amod さんがニコニコと迎えて下さる。サンドイッチやお菓子など、たくさん用意されていた。これまで JICA 事業やまた移動図書館車や本を置かせて貰っていたお礼、今回もタミさんの運転の協力などへの感謝を申し述べた。職員数人とも歓談。ELET はＷ杯に向けて、新たなプロジェクトも申請していた。地方自治体が村々に大型スクリーンを用意するのだが、ELETはその広場の環境づくりを提案している。植林、ごみ処理、それによる人々への環境教育など。ELETとは今後もつかず離れずの良い関係で協力していきたいと平林さん、北爪さんとともに話し合った。

●8 月 20 日（木）

★7：00　ダーバンから南方のウグ郡へ出発。幹線道路の状態は良いが、トラックがパルプ用木材（植林）やサトウキビを満載して前をのろのろと走っている（といっても100キロは出している）のを、反対車線から車が来ないのを見計らって追い越す。タミの運転は機敏かつ慎重、150キロ出すこともあるが安定している。3時間でプンガシェ教育センターに到着。

　平林さんから話を聞いていたドラミニ所長さんが出てこられた。40歳とは見えない決断力のありそうな方だ。TAAAがKZN州に送った移動図書館車の一台が置かれ、ここをベースに運行されている。広々した駐車場に移動図書館車のための車庫がある。さっそく、移動図書館車に伴走して学校へ。丘の連なる田舎の道を30分。エンドウェブ小学校へ着くと、二百人ほどの生徒全員が校庭にぎっしり集まっていた。南アの冬初めての寒さで、生徒たちも身を縮めていた。強い寒風が吹きる。恰幅の良いプンガシェ教育センター所長のドラミニ氏は、寒さなんてどこ吹く風、大きな声で延々と生徒にズールー語で演説。迫力があり、生徒たちは懸命に聞いている。移動図書館、コンピューター、読書の大切さのこと・・など話されていた。校庭には移動図書館が待っている。私と北爪さんは日本語で短い挨拶をして平林さんが英語に通訳。それをまた、学校の先生がズールー語に訳されると低学年の子供たちはちょっとどよめいていた。

★さて、ドラミニ所長さんも、この後のTAAA とのミーティングがこれからのご自分の所轄地域にとっていかに重要であるかを心得ておられ、さあ、もう一度教育センターに戻って、ミーティングをしましょう、と急ぎセンターへ引き返した。ウグ郡では今、TAAA の読書促進プロジェクトを学校を中心に行っている。9月にも読書教育の教員研修を行う。20校の先生たちの研修も所長さんが中核を担ってくださる。別個に所長さんは10月に読書コンテストも実施予定だそうだ。そして、なんと、読書指導員2名は、昔ELETにいたジュリア・レイノルズさんが紹介して下さった学校の先生なのだ。整理すると、ここでは、今現在、①「読書動②教育省が運行する「移動図書館」③TAAAとしては、来年度は学校農園・家庭菜園・コミュニティ菜園による農業普及プロジェクトを計画している。

　プンガシェ教育センターは、その地域の学校管理・教師研修・生徒研修（パソコン室・理科実験室もある。92校に対してはとても対応できる数ではないが）などを行う自治体の学校に関する出先機関です。この教育センターはウグ郡全域ではないが、92校（数10キロ四方）を管轄していて、センター長は各学校と地域の学校後援会とも深くかかわっている。そこからTAAA の農園対象校40を選ぶことはたやすい。また各学校の先生たちを通じて、困窮家庭などについても手の届く立場にいること。ドラミニ所長は、TAAA がンドウェドウェで学校農園を実施してきていることを以前から聞いて、ウグ郡でも始めたいと思っていた、と話されていた。センターの敷地には冬なので少しだが、ネットで囲われた苗床もあった。後援会や校長を通じて生徒の家庭を訪問もできるので、学校から家庭菜園へ広げるというプロジェクトには大いに貢献できるし、モニタリングもできる、と意気込んで話された。すぐにでも始めたいという気持ちのようだった。

★この日は、美しいウムズンベの海浜ホテルに宿泊。木々と芝の庭園に囲まれた平屋のホテルだ。平林さんと私で一部屋。北爪さんとタミが部屋をシェアした。夕方は満潮と強風で庭先まで高波が恐ろしい音を立

写真上：ウムズンベにて平林薫（左）と　下：中央がドラミニ所長

てて押し寄せてきたが、翌朝、波が引いて凪いだときに、タミ以外の3人で真っ白な砂浜を散歩した。
●8月21日(金)
★ウムズンベの海浜ホテルをタミの運転で3人が出発。ポートシェプストン市の KZN 州教育省(ELITS)のマコシさん(平林さんとはすでに面識のある方)とミーティング。昨日と同じウグ郡だが、昨日の方面からは数10キロ離れた海岸に近い地域ドゥドゥドゥの学校やコミュニティ農園をマコシと一緒に回った。私たち TAAA としては、ウグ郡での農園や図書活動を展開するために、この地域の要望や実態や条件などを知っておきたかった。今年3月までンドウェドウェでは、24校の学校農園が成功し、家庭菜園への広がりも出てきた。今、ウグ郡で学校図書教育のプロジェクトを行っている。来年は、ぜひこの地でも、農園を促進していきたいと平林さんは考え、私たちもそれに協力できる態勢を作っていきたいと考えている。JICA もンドウェドウェの成果を高く評価し、さらに発展できるプロジェクトを TAAA に期待している。前日は、教育センターのドラミニ所長さんとかなり詰めた計画を協議することができ、学校関係の協力は任せてほしい、という力強い言葉をいただいた。この日は、もうひとつ、農園活動の発展的な部分として、学校だけでなく、家庭菜園以外のコミュニティへの農園の発展や失業している人たちや若者への農業指導の可能性などを知ることができた。
1. Shonkweni 小学校を訪問。(Dududu)
ここでは部屋さえあれば図書室の準備態勢は少しずつ整っているということだった。本棚や本を置く場所がないのだ。日本の草の根無償資金などが利用できれば、と思った。
2. コミュニティ農園に取り囲まれた Philani Clinic。
斜面の日当たりのよい畑がクリニックの隣に開けている。低いところには水が少したまったため池もある。農業と図書の専門家である北爪さんは即座に「3 反あるな」と言われた。よく手入れされた畑であることが私にもわかる。陽だまりでは8人程の女性が座り込んで休憩していた(**写真:下**)。マコシさんの説明によると、これは地方自治体が支援して作った農園で、20人が働いていて、収穫以外に労働に対して少し支払われていること。クリニックでも使い、余ったものは販売もするとのこと。州農業省の農業指導員が週に一回、回ってくるそうです。一部では行政からこのような取り組みがされているのだ。
★課題:緑色の直径2m以上ある大きな水のタンクが斜面上部と中間の2か所に設置されてあるが、数年、ポンプもなく稼働していないとのこと。タンク設置と水道やモーターの部署が異なるので、今のところ、稼働の見込みは無いそうです。この地域では、冬はとくに水が問題です。日本でも東北や北海道など、冬の農業は休業状態ですから、仕方がないことかもしれないとも思ったが、立派なポンプがもう一つ訪ねたコミュニティ農園にも設置されてほったらかしになっているのは、行政のあまりの無駄なやり方と思えた。井戸とポンプがあれば冬場でも十分収穫が得られる。とにかく、コミュニティ農園が行政の支援で一部は実施されている様子を知ることができたのはうれしいことだった。

3. マコシに案内されてドゥドゥドゥ・クリニックの隣の Phindanele 高校を訪ねました。社会に出たり、専門学校へ進むのも近い年齢の生徒への農業の教育は行なわれているだろうか。高校には給食が行なわれていない。その高校には本当に小さい畑があった。農具がないので、と言われていたが、深く耕せないのか、ほそぼそした野菜が少し残っていた。農業という選択講座が週に 2 回あると掲示されていた。KZN 州では大きな都市には農業専門学校があるが、一般には農業を学ぶ機会は非常に少ないということだった。農業促進は行政の方針でもあり、高校やコミュニティも望んでいるが、実際には課題が多く、あまり進展していない、というのが現状だった。
★その日は、ダーバンに戻った。夕刻からビーチ沿いのレストランで、南ア TAAA 主催で、移動図書館運行開始祝賀会を行う。元 ELET スタッフで日本に13年前に招待したジェーン・ジャクソン、TAAA 担当だったジュリア・レイノルズ、移動図書館を運転をしてくれているマイケル、貸出しその他の仕事をしてくれているサンディーレ、ELET のタミ、中地明子さん、ジュリアの紹介してくれた2名の読書指導員(小学校の先生)の11人です。南ア TAAA 事務所が初めて運行する移動図書館の祝賀会が素晴らしいメンバーの参加で行われた。

左から北爪、野田、ジュリア、平林、ジェーン

●8月22日(土)この日はダーバンから車で3時間の Hluhluwe 公園へ。ゾウの親子が水を飲んでいたり、思いがけない藪の中から鹿がのぞいていたり・・。
●8月23日 空港へ 24 日 23 時帰宅。

ンドウェドウェ＆プンガシェ地区の移動図書館を観て

北爪　健一

ＴＡＡＡの会務として 8 月 16 日から 24 日まで、移動図書館の運行状況を野田代表と視察した。視察目的は、我が国で集め送った移動図書館車と英語図書が、計画通り稼働・読まれているか否か見届けること、加えて移動図書館の運営相談に応じることであった。

ＴＡＡＡは既に移動図書館車２８台を送り、そのうちクワズールーナタール州へは 11 台を数えている。移動図書館が現地で稼働するためには、先ず輸入許可を取得し、次にナンバーを得なければならない。ところが近年、南アの政策として中古車両の輸入を制限し始め、2008 年より中古移動図書館車は送れないこととなってしまった。この状況からＴＡＡＡは、国内での車両収集を断念せざるを得ず、既に輸出してある移動図書館車を稼働させるべく対策を講じてきた。課題は運営主体（ナンバー取得者）であり、誰が責任を持って移動図書館を巡回させるかである。そのことは TAAA の活動を理解し、車や本を寄贈してくださった個人や団体、更にその活動に資金面で援助下さった方々のご厚意に応えるためでもあった。

ンドウェドウェの図書館車から、先生が生徒や授業のためにどんどん借りていく

フェイス to フェイス、現地に会員が住んでいることがこれ程効果的とは思わなかった。メールや FAX では一向に進展しなかった車両手続きや人事は、直接、関係者に会うことでスムーズに進んだ。ＴＡＡＡ南ア事務所の平林薫さんは、ダーバンでの本職を離れクワーズナタール州教育省と地域教育センターなど移動図書館導入へ向け東奔西走し、その結果、今年に入り二つの地域で移動図書館の運行が実現した。

先ず、2 台の移動図書館が巡回する２地域の学校数として、ンドウェドウェ地区が 30 校、プンガシェ地区が 10 校で更に広げると平林さんから報告があり、訪問期間７日のうち３日間、２台の移動図書館巡回に随行した。また、送った英語図書、書架、ブックエンドなどとも再会できた。

ンドウェドウェ地区についてはボランティア貯金の支援金も充てられ、運営に欠かせない職員が図書整理のパート職員２人を含め４人を擁していた（マネージャーの平林さんを入れると５人）。何とも心強く我が国での 1 台当たりの要員に引けを取らない体制であった。

18 日、２校の小学校で移動図書館車の書架を観た。図書の積載冊数が少なく、とても生徒は借りられない。従って、教師がクラスを代表して借りることも頷けた。まだまだ、図書の量が足りない。また、３年生まではズールー語での授業となるので低学年に合わせたズールー語絵本の必要性を感じた。読書習慣は幼児期が重要であり、この時期に読書の楽しみを味わうことにより、多くの教養と娯楽に触れることができ、また、人生の糧となることもできる。ＴＡＡＡの活動の柱とする英語図書の収集は、これまで引き裂かれてきたが人々により良質の図書を提供しなければならにことを実感した。

昨年の支援で図書室はできたがまだ本が少ないムジェレ高校

プンガシェ地区のスタートではハード面を確認した。移動図書館車は THE MOBILE BRAIN BOX、ELITS（クワズールーナタール教育省）と大きく書か

左：図書館運営の講義をする著者（中央）スバネ小にて

れ、運営を約束し、プンガシェ教育センターの立派な書庫に収められていた。また、センターの機能は充実し、我が国の生涯学習センターの様相を呈し､図書室､コンピュータ室、自習室、会議室も備えていた。７・８人の若者がコンピュータ室で学んでいた。エンドウェブ小へ初めての巡回であった。学校では全校生徒を集めドラミニセンター長の挨拶、教頭先生の訓示、野田代表の挨拶があり、勢いに任せ私も「沢山本を読んで」と述べさせて貰った。セレモニー後、担当職員の手により移動図書館車の扉を開けたが、矢張り図書の少なさを痛感した。当然、教師のみの貸し出しであった。ここまで、ダーバンからは、砂糖キビの大農園の中を走り続け、優に150km位の道程であった。もう１校の小学校へブックエンドを渡した。初めての用品らしく、図書を挟むのではなく図書の背中へ当てたので思わず手を出した。

TAAA は、これまで各校図書室の図書充実へも重点を注いできた。それは移動図書館車の巡回とは別に、何時でも生徒が本に触れることを目的とした。しかし、殆どの図書室には鍵が掛けられ、生徒が自由に借りられる体制ではない。我が国の学校図書館も最近まで開かずの踏切であったが漸く開放されてきた。状況は同様、図書室を運営する人（先生、司書）がいないのが実態である。施錠は盗難予防も在るが、生徒が読んでくれるなら多少の不明図書は覚悟しなければならない。この事は南ア TAAA へ進言する。

訪問初日､南ア TAAA の図書仕分場として使う大きな部屋を見た。クワズールーナタール州教育省が管理する大学跡の一室、100 ㎡位と思われる天井の高い部屋には沢山の棚が備え付けられ大きなテーブルも 4・5 脚あった。送ったダンボールが 30 箱位積まれ、開函したダンボールも 20 箱位積まれていた。これ程、適した図書整理室は我が国図書館でも希である。ここで図書整理の二人は、思う存分きめ細かな図書の振り分けが可能となり、私達 TAAA の図書収集活動にも弾みが付く思いであった。

今般の南ア訪問は、もう一つの菜園プロジェクトの調査でもあった。[晴耕雨読]は私の目指す処であるが、南アの子ども達に託すのは多くの課題がある。将来、私と同じ心境になって欲しい。

ブンガシェの図書車から本を選んで借りる先生たち

クワズールーナタール州の田舎は丘が続く

西ケープ州エルギンの移動図書館の報告書

久我 祐子

エルギン学習基金（西ケープ州）は、毎年一番早く一番内容の濃いプロジェクト報告書を提出してくれる現地パートナーです。1995 年に、貧困地域（特に遠隔地）を支援するために設立されたこの NGO は、農業、教育、保健、小規模ビジネス支援と幅広く活動を展開しています。
ワインや果実で有名な西ケープ州には、美しい大農園が広がっていますが、その農園内には、極貧状態ともいえる農地労働者たちが住み、その子どもたちが通う貧しい学校が点在しています。閉鎖された農園内での生活は、大人も子どもも情報やあらゆるリソースのアクセスが乏しいために取り残された状態になりやすく、都心の貧困とはまた別の問題を根底にかかえています。

エルギンの移動図書時間から本を借りる生徒たち

移動図書館車の訪問を毎回大喜びで迎えているのは、そのような農地内の学校の子どもたちです。 エルギンは、子どもたちが農地内のダムで水死するのを防ぐために、水泳教育も行っています。

支援対象地域、学校、生徒たちの情報

対象地域　西ケープ州　エルギン、グロービュー
対象校　8校
対象生徒数　2，657名
校内に図書館がある学校はありますか　ありません。
学校は読書習慣を高める教育をしていますか。
しています。毎日30分間の読書時間を課しています。 この30分間読書は、西ケープ州の全ての学校で義務づけられています。読書時間は、教師は生徒たちになるべく教科書以外の本を読むようにさせます。
全国標準と比較した生徒たちの読み書きレベル　生徒間で、ばらつきが見られる。
母語（アフリカーンス語とコサ語）の読み書きレベル　高い ～ 低い
英語の読み書きレベル　標準 ～ 低い
中途退学者の比率　10～15%
退学の主な理由　生活のために働きに出なければならないから
親たちの主な仕事　農地労働者、肉体労働者、 家政婦
片親に育てられている生徒の比率　50% ～60%
学校給食について　全ての対象校に給食が配給されています。一般的な献立は次のようなものです。
夏期　○ ピーナッツバターかジャム付きのパン　○ 豆乳シェイク
冬期　○ メイズと豆シチュー　○豆乳シェイクかスープ
リンゴ農園内の学校では、農園主からアップルジュースが配給されることもあります。また、自分たちで野菜を育て、シチュ

一に加えている学校もあります。

プロジェクト情報

プロジェクトはいつ始まりましたか　2002～2003年
スタッフの数および職種　運転手 1名　司書 1名
生徒が直接本を借りることはできますか。
貸出の約 70%は生徒　残りの 30%は教師が生徒のために借りています。
移動図書館の学校巡回頻度　一校につき、1ヶ月に一回訪問する
生徒に人気がある本　**10歳以下**　絵本、小説
10歳～14歳　小説、ノン・フィクション（男児に人気）
14歳以上　小説、宿題に役立つ本
移動図書館車サービスを一番よく利用する生徒の年齢層
10歳から14歳
需要が高いが不足している本　絵本、小説（特に母語であるコサ語、アフリカーンス語）、 教師用の教材
バスが一巡回に運ぶ冊数　2千～3千冊
教師たちはどのような態度で係わっていますか?　積極的に係わり、アドバイスしたり、サービスの拡充を要求している。
プロジェクトの主な問題点　資金不足
この2、3年間におけるプロジェクトの3つの主な進展
○ 本の貸出について
今までは教師にクラス分の本を貸し出すに留めていたが、高学年児童（グレード4からグレード7）対しては、直接貸し出しをするようになった。この結果、生徒たちは前よりも図書館利用に積極的になり、仲間うちでハリーポッターなど特定の本を薦め合うようにまでなってきた。
○教師に対する支援プログラム
●教師が授業・宿題に必要な資料を移動図書館にリクエストできるようになった。図書館側は、書庫から本を探したり、資料をコピーしたり、インターネットで検索し教育省図書サービス課の図書館に問い合わせたりして、全力でリクエストに応える。
●読解力に問題のある児童を教える際の支援として、アフリカーンス語の「LD 児童・生徒のための補助教材」を購入した。
●移動図書館車は、低学年の30分読書用に適切な絵本セットを提供するようになった。

移動図書館車の外棚がよく利用されている

本の紹介

◆〈貧困のリアル〉　稲葉 剛 / 富樫 匡孝 著　飛鳥新社 714 円（税別）

いなば・つよし 1969 年生まれ。東大卒。NPO法人自立生活サポートセンター・もやい代表理事。2001 年、生活困窮者の支援をするため、湯浅誠と「もやい」を設立。現在はホームレスだけでなくあらゆる貧困問題の相談、対処に明け暮れる日々を送る。

とがし・まさたか 1978 年生まれ。NPO法人自立生活サポートセンター・もやいスタッフ。高校卒業後、新聞奨学生など職を転々とした後ホームレスに。2006 年もやいに相談、ボランティアとして参加。現在は若者の生活相談、居場所作り、講演活動などを行なう。

貧困の実態を具体的に示し、「どれだけの貧困対策をすれば、どれだけの効果が上がるのか」など現実的な議論や試算を始める時である、と述べている。 貧困問題の先送りはもうできない。

◆〈 どんとこい、貧困 〉　湯浅 誠 著　理論社 1365 円

ゆあさ・まこと 1969年生まれ。東大大学院博士課程単位取得退学。反貧困ネットワーク事務局長。『反貧困』（岩波新書）で第8回大佛次郎論壇賞受賞。もやい事務局長。

現代が抱える貧困問題を子どもにもわかりやすく解説し、具体的な処方箋を提示している。貧困を自己責任として断罪するのではなく、「変わるべきはぼくらの社会」であると説く。　（野田千香子）

「動く→動かす」設立記念シンポジウム　JICA 地球ひろばにて

久我　祐子

ＴＡＡＡがフレンズ会員として加盟しているＧＣＡＰ Japan が、この度「動く→動かす」という斬新な名称に命名され、2009 年６月１７日に「動く→動かす」設立記念シンポジウムがＪＩＣＡ地球広場でありました。NPO/NGO、企業、省庁、大学生の方など、160 名程が参加し、世界の貧困撲滅を願い、それに向けての大きなムーブメントの柱として「動く→動かす」の設立を祝福しました。大きなイベント会場で大型スクリーンを使っての立派なシンポジウムでした。ＴＡＡＡからは、野田代表、浅見さん、渡辺さん、久我が参加いたしました。

シンポジウムの題名は、「もう一歩、貧困のない世界へ」副題は「アフリカ子どもの日に考える」でした。６月１６日の「アフリカ子どもの日」は、１９７６年６月１６日南アフリカで起きたソエト蜂起で虐殺された子どもたちを悼み、自由を勝ち取るために立ち上がった彼らを顕彰し、アフリカの子どもたちが、みな学校へ行けるようにすることをめざして定められたものですが、現在、世界全体のエイズ遺児の７５％をアフリカの子どもたちが占めるなど、アフリカの子どもたちの過酷な現状が強調されました。

プログラムの流れは、第１部は、運営委員からの「動く→動かす」（GCAP Japan）の設立の経緯や目的が語られ、世界からのメッセージがスクリーン上で紹介され、そして、『各界からの期待』として、以下の方々のスピーチがありました。

・（株）日本総合研究所　主席研究員　足達　英一郎氏　　・政策研究大学院大学教授　大野　泉氏
・国連開発計画（UNDP）駐日代表　村田　俊一氏　　・反貧困ネットワーク事務局長　湯浅　誠氏

この第一部から、私が特に印象に残った言葉を以下にご紹介いたします。

●運営委員の冨田さんの話

「動く→動かす」が目指すもの

ミレニアム開発目標では、世界１８９ヶ国のリーダーが、「２０１５年までに世界の貧困を半減すること」などを約束した。しかし今までの成果をみると、この達成は大変難しいと言われている。現在世界の５人に一人が極貧状態といわれている。世界には、世界中の人々を貧困から救えるだけの、食料、資源、お金がある。足りないのは、貧困をなくそうという意志だ。ミレニアム開発目標を達成させることを、各国のリーダーたちに強く求めていく。そして、日本で世界の反貧困への世論を盛り上げていきたい。

●　反貧困ネットワーク事務局長　湯浅さんの話

世界の貧困と国内の貧困の構造は似ているし、割合も似ている。ＯＥＣＤの調べによると、日本の子どもの貧困率は先進国の中で非常に高く、７人に１人の子どもが貧困状態だといわれている。生活保護を受けていない母子家庭の６６％は働く貧困層といわれている。残念ながら日本は他の先進国と違い、４０年間も貧困の調査をしていない。先ずしっかりとした調査をしてほしい。

●　国連開発計画（UNDP）駐日代表　村田　俊一氏の話

ＯＤＡの額は景気に左右されるべきものではない。景気がいいから、ＯＤＡを増やす、不景気だから削る、という政府のやり方はとてもおかしい。

第２部は、トークセッションでした。

キーノート・スピーチは、JANIC 理事の熊岡路矢氏で、パネリストは以下の５名でした。

・岩附由香（（特活）ACE 代表／児童労働ネットワーク（CL-Net）事務局長）
・菊川穣（（財）日本ユニセフ協会係長、元ユニセフ・エリトリア HIV/AIDS コーディネイター）
・津山直子（（特活）日本国際ボランティアセンター（JVC）前南アフリカ現地代表）
・山田太雲（（特活）オックスファム・ジャパン　アドボカシー・マネージャー）
・ファシリテーター：片山信彦（（特活）ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長）

津山さんのことは皆さんご存じだと思います。　菊川さんは　以前ユネスコ職員としてジョハネスバーク在住の際、TAAA の移動図書館車プロジェクトの発展に多大な貢献をして下さった方です。パネリストの一人一人が話す時間が限られていて残念でしたが、ここでも私が印象的だと思った言葉を紹介いたします。

●津山さん　　貧しい人たちは、ただ単に援助の対象ではない。彼らが自尊心をもち誇りを持って生きることが大切。我々は、途上国の人たちと共に動き、共に動かすことが大切。

●　菊川さん　　貧困の当事者が主体として動くことが大切。反貧困の意識を広げるには、宗教のネットワークを利用

すると効果的。特定の宗教に限らず、様々な宗教のネットワークと繋がると広がりが早い。

● 岩附由香さん（(特活）ACE 代表／児童労働ネットワーク（CL-Net）事務局長）

児童労働者は、世界に２億１千８百万人といわれている。そのうち三分の一がアフリカの子どもたちだ。「ネットワークより、自分の団体を強化・拡大することが大切だよ」と言われ続けてきたが、そのアドバイスを振り切り、自分は活動初期からネットワーキングに拘り尽力した。ネットワーク、連帯の強みは、重要なアクションをタイムリーに一緒に出来ることだ。これはインパクトがある。

●山田太雲さん（(特活）オックスファム・ジャパン　アドボカシー・マネージャー）

政府の政策を変えるのに、市民団体が影響力をもつようになるべきだ。NGO が力をつけて、Public mobilization に貢献すべき。

質疑応答の時間に外務省の方から「現在日本国内も不景気で、このような時勢に ODA 拡充を世論に訴え賛同を得るのはとても難しい。まずは国内のことをやれ、といわれる。　この問題、どうすればいいか」という質問に対し、山田さんは、「貧困の問題の根っこは国境を越えても同じ。この意識を広めることが大切。湯浅さんの運動のように、国内の貧困者同士が立場の違いを超えて連帯していくことで成果を上げているように、国境を超えた連帯感が必要だし、そのためのアドボカシーが必要だ。」

シンポジウム終了後は、同会場で懇親会が開催されました。　アフリカ料理のビュッフェを楽しみながら、参加者数人のスピーチを聴きました。野田さんも、主催者の稲場さんに頼まれ、急遽スピーチをすることに。ＴＡＡＡの活動内容を説明し、日本での貧困の広がりにも会として関心をもち、ＧＣＡＰのフレンド会員になったことなどを話されました。野田さん、お疲れさまでした。そして、最後にＡＪＦの林達夫さんが音頭をとり、「アマンドラ！」と拳を挙げてお開きとなりました。(南アのアパルトヘイト時代の抵抗運動で、黒人たちはよく「アマンドラ」と叫び拳を挙げていました。私にとってもとても懐かしい言葉でした。)

ひとこと

TAAA の活動に参加して

浦和学院高校３年　　田中 真悠

私は昨年の夏から TAAA のボランティア活動に参加しています。きっかけは、アフリカの子どもたちも私達と同じように勉強をするためになればと思い、はじめました。活動では、全国から送って頂いた本や文具などをダンボールに詰め直したり、会報誌を折って封筒に入れることなどをしました。アフリカの子ども達からの感謝の手紙や笑顔いっぱいの写真を見て、うれしくなり、これからも自分なりに協力していきたいと改めて思いました。

(浦和学院高校から毎回数人の生徒さんがボランティアで来て下さり、本の仕分けや梱包の仕事をして下さいます。とても大きな力になっています。)

ある日の梱包作業(後ろに積まれているのが出来上がった箱)

本の引き取り

北爪 健一

東久留米のクリスチャンアカデミーの図書館へ図書の受領に行ってきました。夏休みと聞いていたので、閑散とした校内を想像していましたが、図書館開館日なので、大人も子供も沢山いて賑わっていました。受付の事務員さんも承知していて、直ぐに台車を手配してくれ、とてもスムーズに積み込むことができました。大小14箱を作業場に搬入したのは丁度12時でした。ここへは、カーナビがないとなかなか辿り着けないことが分りました。

◆　主な活動（2009 年 5 月 16 日～2009 年 9 月 15 日）　*下線は南アにおける活動*

5/16 アフリカン・フェスタ横浜にて　中野敦子
　野田千香子　西村裕子　上林潤子
5/17 フェスタ2日目　中野　野田　山下八千穂
　西村　下谷房道　佐々木佳世子　千葉愁子
5/18　運輸省ライセンス局へ　平林薫
5/19　ELTS(州教育省)にて本の整理　平林
5/22　イナンダ、マンドシ小学校へ　平林
5/23　HP「TAAA とは」更新　渡恵美子
5/25～　会報50号編集　野田
5/25　ンドウェドウェ学校訪問　平林
5/26　プンガシェ教育センター訪問　平林
5/27～29　ンドウェドウェ学校訪問　平林
5/28　ELET25 周年記念祝賀会　出席　平林
5/30 清泉インターナショナルスクールへ本引き取り
　北爪健一　野田
5/31　梱包作業と会議　鯨井幸一　野田　西村
浅見克則　佐々木　佐々木香帆　下谷　田中貴大
5/31 決算書監査　下谷
6/1　ボ貯金帳簿（国内・南ア）題紙作成　西村
6/1　運輸省ライセンス局へ　研修準備　平林
6/2　教師研修会開催　平林
6/3　共同通信州藍ンドウェドウェ学校訪問　平林
6/4　運輸省ライセンス局へ　平林
6/5　ンドウェドウェ学校訪問　平林
6/5　会報校正　印刷へ　野田　西村
6/8～9　ンドウェドウェ学校訪問　平林
6/9　ゆう貯財団より2名来訪　野田
6/10　運輸省ライセンス局へ　平林
6/11　ンドウェドウェ学校訪問　平林
6/12 ンドウェドウェ学校訪問・プンガシェ教育センター所長と会議　平林
6/14　梱包作業と会議　鯨井　野田　西村　上林
　奈良遥　浅見　浦和学院高校より田中真悠さん、
　田中歓奈さん、吉原綾乃さん
6/15　会報発送　野田
6/17～19　ンドウェドウェ学校訪問　平林
6/17　クリスチャンアカデミーインより本引き取り　北爪
6/17　「動く→動かす」GCAP シンポジウム　久我祐子
　野田　渡辺英通　浅見
6/21　アフリカ日本協議会(AJF)総会　牧野久美子
　野田　久我
6/22～23　ンドウェドウェ学校訪問　平林
6/25～26　JICA サポーター北澤豪氏ダーバンへ　平林
6/25 ～6/30　三つ折りパンフ更新　西村　野田　久我
6/28　HP トップページ更新　渡
6/26　会報50号を HP にアップ　近藤信幸
6/30　本を作業場へ搬入　渡辺
7/2　マスコミへ報告会リリース　野田
7/4　日本へ一時帰国　平林
7/4　元 JVC 南ア事務所津山直子さん講演会
　野田　上林　佐々木
7/4　巣鴨とげぬき地蔵に出展　浅見
7/5　「ぐりとぐら」背表紙ラベル作成　西村
7/11　梱包作業と会議　鯨井　浅見　久我　上林
下谷　野田　平林　浦和学院高校より出雲正剛さん、
工藤満智さん、池田昌平さん、石塚峻大さん
7/22　元 JVC 津山さんと会合　平林　野田　久我
7/26　TAAA 南ア活動報告会　さいたま市にて
8/2　日本よりダーバンに戻る　平林
8/3～6　運輸省ライセンス局へ・研修準備　平林
8/3　ゆう貯財団へ TAAA 報告会の実施を報告　野田
8/7　教師研修会開催　平林
8/8　縄跳び紐2020本　搬入　山下
8/9　梱包作業と会議　鯨井　西村　下谷　野田
　北爪　関根泰慶　米山周作　浅見
8/11～14　ンドウェドウェ学校訪問　平林
8/11　本輸出用一覧表作成　関根章博
8/17　南ア訪問・ KZN 州教育省へ　平林　野田　北爪
8/18　移動図書館指導　講師　北爪
8/18　有機農園へ　平林　野田　北爪
8/19　ELET にて会議　他　平林　野田　北爪
8/20　ウグ郡教育センター会議。学校へ
8/21　ウグ郡高校などへ　平林　野田　北爪
8/21　移動図書館開始祝賀会　平林　野田　北爪
*　サンディーレ　マイケル　中地明子他*
8/21　グローバルフェスタ説明会　丸岡晶
8/24～28 、31、 9/4 ンドウェドウェ学校訪問　平林
9/7　本を作業場へ搬入　渡辺
9/7　ラッシュ助成金完了報告提出　平林　野田
9/7～11　ンドウェドウェ学校訪問　平林
9/7　ボランティア貯金中間報告　平林
9/13　HP「活動内容」更新　渡
9/14　グローバルフェスタ参加費送金　野田
9/14～15　ンドウェドウェ学校訪問　平林

ルイボスティのご紹介

ルイボスティ茶は南アの西ケープ州だけでとれる健康茶です。カフェインが少ないのでどなたでも召し上がれます。
1箱　80 パック　2000 円（送料一律 500 円）
　（5 箱以上　送料無料）
1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。
お申込みは、P12　のTAAA連絡先へ
ルイボスティに同封する振込用紙で後からご送金ください。